

たっちだより 第23号

こんにちは、訪問看護ステーション・タッチです



訪問リハビリを利用して

あらためて顧みれば、今年の5月に体調不良で検査入院、結果は大腸癌でした。心のダメージが消えぬまま、手術をしました。16歳の時に急性上行性脊髄麻痺3年程の加療もむなしく、両下肢に後遺症が残り、歩行補助具を付けた身障者には突然の入院は大変辛い毎日でした。術後3日目からリハビリ開始。痩せ細った身体が歩けるようになるのか？不安を抱きながら、理学療法士に従い頑張りました。

退院後も継続が必要なため、病院直系のタッチ（訪問看護・リハビリ）にお世話になっています。お陰様で体力、気力が少しずつ向上してきました。担当の看護師さん、理学療法士さんは大変でしょうが、私にとっては、エッセンシャルワーカーとして大切な存在です。次回の訪問も宜しくお願い致します。



# 訪問看護を利用して

父は脳出血で西大宮病院へ入院。後遺症から飲み込む力が落ち、食べたり飲んだりすることが出来なくなりました。そのため、胃に直接、栄養を入れる胃ろうの手術を受け、退院となりました。そんな父でも慣れ親しんだ自宅で介護が出来ないかと考え、退院前から父の様子を見に来て頂いたこともあり、タッチさんに週3日間、お世話になることになりました。在宅での介護生活は、度々微熱も出たり、痰が多く家族が痰の吸引をする必要もありますが、家族が上手に吸引出来るよう、やり方を優しく教えて頂きました。また、タッチの皆さんは、とても明るい表情と声で父に話かけてくれるので、父も笑顔になり、いつもより会話の受け答えもスムーズになります。介護をする中で不安のある私たち家族の心も和らげてもらっています。又、私たちの体の負担も心配してくれるので、いつも本当にありがたく、明るく介護の負担を減らしてくれる、そんな心強い存在です。



T様の息子様



10年前にガンで亡くなった義父もタッチさんにお世話になり、94歳の義母までお世話になっています。昨年、夏に腎臓を悪くして入院し、退院してから足腰が衰え始め、介護なしでは歩けなくなってしまいました。お風呂もトイレも一人では無理。今はベッド上でオムツを替えています。入院前は野菜が苦手でしたが、退院後は肉でも野菜でも細かくすれば何でも食べてくれます。

話も聞いて下さり、アドバイスもして下さい、タッチの皆さんには心から感謝しています。私一人では、何から何まで認知症になっている介護は無理です。これからも今まで同様、宜しく願い致します。

K様のお嫁様



今年の春よりお世話になっております。寝たきりの状態で退院することになり母も家族も不安を抱えていましたが、タッチさんは退院前より病室を訪ねて下さり、退院後のことについて様々なアドバイスを頂戴しました。在宅介護が始まってからも、毎回優しくご対応いただき、おかげで不安が消えていきました。

母はいつもタッチさんに来ていただくのをとても楽しみにしていて、タッチさんが帰られると、次はいつから？と家族に尋ねることがよくあります。また母はタッチさんに優しく体をケアしてもらったと嬉しそうに話してくれます。先日、母の体調に変化があった時も迅速に対応下さり、母も家族も本当に安心いたしました。感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

S様の娘様



TEL:048-646-4701

FAX:048-646-4700

Eメール:touch@nishiohmiya-hp.or.jp